

シリーズ ひと

「音楽で人と社会に貢献する」
それがわたしの生きている証です

はやし かなえ
林 佳奈枝さん

西在住。彩の国うたのお母さん、作詞・作曲家、ソプラノ歌手、ピアノ教師、大学講師（声楽科）、日中文化交流協会会員。



西方寺で歌う林さん

林さんは大阪府の出身。高校卒業後、教師を目指し埼玉の大学に入學。1年生のとき、ピアノ科の教授に勧められて音楽専修科に進む。しかし、楽器といえば小学2〜3年生に習ったオルガンだけで、周りは皆、幼いころからピアノを習った人ばかり。戸惑ったけれど猛練習をして同科を卒業した。国立大学で奨学金を受けて卒業したことを林さんは「国民の税金で勉強させていただけだから国民の皆さんのために働く人間になると在学当時から思っていた。

ました。」と熱い思いを語ってくれた。卒業後は都内の小学校で教員を務めた後、出産のため退職。そのとき大学時代のピアノ教授から「あなたはピアノ教師に向いている」と勧められピアノ教室を開いた。

そして、38歳のとき、84歳の老音楽家と出会い「あなたは声楽の人です。ピアノをやめてでも声楽を学びなさい。」と勧められた。戸惑ったが、ピアノも続け声楽を学ぶことを決意した。

そして、3年経って声楽を勧めてくれた老音楽家から、今度はコンクール出場を勧められ、越谷市において行われた「彩の国・うたのお母さん・お姉さんコンクール」に出場。入賞し、「彩の国うたのお母さん」の称号を埼玉県教育委員会、越谷市教育委員会から授与された。

その後、林さんは当時住んでいた蓮田市の皆さんに、合唱団を作り無報酬で歌を指導したり、県内外で年間20回にも及ぶコンサートや講演するなど精力的に活動した。

こうした活動が認められ、1999年に北京で開催された「建国50周年中日友好音楽会」に招けいされ中国の音楽家と共演。今でも中国の音楽家の皆さんとの交流が続いているそうである。

一方、作曲活動にも精力的に取り組み始め、15年間で作った曲は100曲を越えている。身近な人にはも

ちろん、病気で苦しむ人たちなどに曲を献呈している。奈良の西方寺（奈良時代、行基が創建、宮本武蔵も逗留）では、林さんの作曲作品が寺の曲となっている。

その関係もあり、今年の4月27日に西方寺に招かれ林さんが歌う。そのことについて最後は白岡町の自然と景色を織り込んだ自作曲「幸福」という曲でまとめます。」と地元に対する愛情も忘れない。

そんな林さんに今後の目標を尋ねると「忙しいので健康に気をつけて長生きし、終生、音楽で人と社会に貢献していきます。それがわたしの生きている証だと考えていますから。」と力強く優しく語ってくれた。

プレゼント

林さんのご厚意で、自作曲のCDや作曲集を10名のかたにプレゼントします。ご希望のかたは町民活動推進課広聴広報担当までお問い合わせください。